



学校だよりの 1月号

横浜市立菊名小学校

令和5年1月10日

「よき仲間」に恵まれる菊名小

校長 野間 義晴

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、晴れやかな空気に包まれます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。今年も菊名の子どもたち、保護者や地域のみなさまにとりまして、健康でよい一年になりますよう願っております。

サッカーW杯の熱狂は記憶に新しいところですが、この冬には、駅伝にサッカー・バスケットボール、バドミントンにラグビー、アメリカンフットボール等々、多くのスポーツの大会がありました。個人で得点を競うものや集団種目で対戦相手と勝ち負けを決めるものもあります。どの競技にも夢をもち、努力を重ね、代表となった選手のみなさんがすばらしい活躍をみせていて、思わず手に汗握り心が動かされました。

どの競技にも決勝戦や予選で敗れた選手やチームがあります。代表になっても当日コンディションが悪く出場できなかった事情もあったのかもしれませんが、こんな選手たちを自分とは遠い別世界の人のように感じてしまうこともあるかもしれません。それは当然だと思います。才能や努力もきっと大きく違うからこそ、あんなにすごいパフォーマンスができるのだと考えがちです。ただそんな選手も、小さい頃から何回も練習に取り組み努力を重ね、競技や試合の中で勝ったり負けたりしてきた時期があったことと思います。それは、今の私たちと余り変わらないのかもしれませんが、努力を続けたものがスポーツであったか、他のものであったのかの違いはあるのかもしれませんが、どこまでその努力を続けようとしたのか、そして続けてきたのか。このことが自分自身に大きく関わってくるのだと思うのです。

スポーツマンとは、スポーツをする人という意味だけでなく、「よき仲間」という意味合いがあることを聞いたことがあります。競い合う相手や対戦相手、ライバルがいるからこそ競技や試合ができます。またその相手が強いほど、勝ったときの喜びは大きいことでしょう。しかし、対戦相手ばかりでなく、試合を支える審判や運営関係者、選手を支えるチームやコーチといったスタッフの面々。そういう人を「よき仲間」と考えれば、スポーツに限らず誰もがスポーツマンになれるととらえ直すことができるでしょう。菊名小の子どもたちもクラス・学年や縦割り交流のふれあい班はもちろんのこと、保護者・地域、そして教職員をはじめとした「よき仲間」に恵まれています。

2023年という新しい年、うさぎ年の幕開けです。教職員一同、「よき仲間」として、うさぎのように期待に胸を弾ませる気持ちを大切にしていけます。本年も菊名小への更なるお力添えとご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

